

矢板のお城めぐり

④



本丸部分

今回は、東泉地内にある「泉城」を訪ねてみましょう。県道矢板・那須線を北進し、泉小学校の手前約三〇〇メートルの所で右折して坂を下ると東泉集落となります。十字路を直進し、内川に架かる「御屋敷橋」を渡ると、正面に小高い丘が南北に連なっています。この城は、その左手の山頂に築かれていました。

城の範囲はおおよそ東西が一五〇メートル、南北が二〇〇メートルで、本丸部分は東西が五五メートル、

南北が九〇メートルの長方形を成しており、この西すそを流れる内川と約一キロメートル東側にある山田城が東西の守りを固めていました。

この城は、天正十九（一五九一）年に塩谷義綱の家臣である岡本講岐守によって築かれたと伝えられています。この岡本家は、代々勇猛として知られ、戦場で命を落とすことを「誉れ」とした家系でした。系図にも「討死」とある武将が並んでいるほどです。

昨年放映されました「真田丸」の中で、近藤正臣さんが演じた本多佐渡守が登場してきました。実は、岡本家二代目城主である義保は、この本多佐渡守に就いて大坂夏の陣に参戦し、敵の首を二三取るといふ戦功を上げ、五〇〇石の加増（注1）を受けています。

東泉は、今でも城下町特有のかぎの手（注2）の構造になっており、さらには御屋敷や根小屋（注3）、高城

南北が九〇メートルの長方形を成しており、この西すそを流れる内川と約一キロメートル東側にある山田城が東西の守りを固めていました。

この城は、天正十九（一五九一）年に塩谷義綱の家臣である岡本講岐守によって築かれたと伝えられています。この岡本家は、代々勇猛として知られ、戦場で命を落とすことを「誉れ」とした家系でした。系図にも「討死」とある武将が並んでいるほどです。

一度タイムスリップをした気分が散策されてはいかがでしょうか。

（矢板市史より）



岡本講岐守墓所

（注1）領地が増すこと。

（注2）街並みが直角に形成されていること。昔の錠前に似ていることから呼ばれた。

（注3）山城の場合には、城内が狭いために城主や武士団の館は山すそに造られた。このすその部分が根っこにあたるとしてこう呼ばれた。

記者の独り言

感動の一枚

晩秋から初冬にかけて、日光の小田代ヶ原に大勢のカメラマンが集まる。私もその中のひとりだ。

早朝、赤松駐車場より自転車にて小田代ヶ原到着。木道にはカメラの三脚が展示会みたいにいっぱい並んでいて、入る余地もなく奥の方に設営をした。

朝、七時前後、太陽の光が差し込むと同時に、霜がついた枯れ草、落ち葉に何とも言えない美しさを感じている時に、一筋の光が射すと、見る見るうちに金色



の帽子をかぶったような貴婦人が現れた。言葉では言い表せないほど感動をした。翌年より数年間、十一月の頭から一週間くらい通ったが、あの金色の帽子をかぶった貴婦人には会えなかった。今でもあの時のシャッターを切る感触が忘れられない。枚数はたくさん切ったものの、できあがった写真はシャッターがぶれが多く、残念。でも、もう一度挑戦したいなと思っている…金髪の貴婦人に会いたいナ…

（J・N）

私の失敗（ほめ言葉がけなし言葉に）

仕事関係で顔見知りの方の息子さんが、野球が強くて有名な高校の部員だったことは知っていた。去年旅行中に、四番バッターだったという話が聞かえてきた。その息子さんは長身でいかにもスポーツマンらしく知っていたので、やはりすごい人だと感激してしまい、元読売巨人軍松井秀喜選手が頭に浮かび、「当たれば飛ぶだろうね」と言ったら、知人（その元選手之母親）がとても憤慨した。私は褒めたのにどうして怒ったのかわからなかった。よくよく考えたら、当たればは仮定で、当たらなければの場合も考えられたかもしれないと思った。

その後、少し経ってから謝ったが何となくきくしやくしてしまい、とんだ失言をしたと後悔している。「松井選手と同じ様に長距離打者で当たれば飛ぶでしょうね」と言えば誤解されなかったのかもしれない。

（K・H）

（編集後記）

早いもので、新しい年だ、お正月だと思っているうちに、もう二月になってしまいました。寒さ厳しい時期ですが、「冬来たりなば春遠からじ」です。春もすぐそこまで来ていますよ。風邪などに気をつけて、元気にこの冬を乗り切ってください。 （R・K）